

推進校別中間報告書

1 推進校の概要

学校名	所在地	電話番号	児童数	備考
ひろしましりつやすにししょうがっこう 広島市立安西小学校	広島県広島市安佐南区 高取南2丁目18-1	(082) 878-7301	454名	

2 研究課題

地域の人材を活用し、家庭や地域との関連による開かれた道德教育の充実
生命を尊重する心を育てる道德教育の充実

3 研究主題とその設定理由

いのちを喜び、いのちを愛おしむ心を育む道德教育

ひびきあい、つながる道德の時間を通して

本校は、広島市の中心から車で北に30分ほどの団地の中にあり、新興住宅地から通学している児童が多い。核家族や共働きの家庭が多く、時間に追われる生活をし、子どもたちとじっくり向き合うゆとりが持ちにくい保護者も増えてきた。

本校の児童は、明るく人なつっこい子どもが多く、全体的に素直な面を持ち合わせている。仲良く落ち着いた学校生活を過ごしているが、生活リズムに課題を抱えた児童や友だちとの関係に課題を抱えている児童もいる。また、してよいこと・してはいけないことの善悪の判断が十分つかないまま入学してくる児童も年々増えている。さらに、長時間テレビやコンピュータゲームに夢中になり暴力や死の場面が日常の出来事のように扱われるなど仮想の世界と現実との区別がつきにくくなっている生活の中で過ごしている児童もいる。

これらの実態を受けて、研究主題・副題を設定した。

研究主題の「生命を喜ぶ」とは、子どもたちが、自分が生まれてきたことをうれしく思い、生命があることや生かされていることを感謝することであり、「生命を愛おしむ」とは、自他の生命や生命あるものすべてを大切なものと考え、感謝と思いやりの気持ちを持ち、さらに、深く自己を見つめながらよりよく生きようとする事だと考える。

また、道德の時間は、子どもたちが心を開いて自分の思いを語り、友だちの考えと交流する楽しい時間であり、資料を通して互いに心をひびきあわせ、友だちや家族、地域の方々とつながり、感動を共にする時間である。自作資料の開発や、ゲストティーチャーの参加も計画し、ひびきあい、つながる道德の時間となるよう工夫していきたい。そのことを通して、生命を尊重する心を育みたいと考える。

4 第1年度の研究の特色及び概要

本年度は、理論研修や授業研究を通して道德の時間を充実することに重点を置いた取組をした。具体的には、以下のことに重点をおいて取り組んだ。

児童の実態把握

- ・ 道德的価値に関するアンケートを児童・保護者・教職員を対象に実施し、生命に関わるアンケートを全児童対象に実施した。アンケートを集計し分析することで児童の実態を把握し、そのことをふまえて、道德教育の全体計画・道德の年間指導計画・道德の時間の指導案を作成した。

道德的な価値の研究

- ・ 道德の時間のねらいを、「分かる」「見つめる」「見つめなおす」の3つの視点から明確にした。
- ・ 道德の年間指導計画で生命尊重を全学年で重点項目に設定するとともに、生命尊重と関連の深い項目も学年の発達段階や実態によって重点化して取り上げた。
- ・ 生命・生命尊重の価値の研究をし、価値の構成要素を拾い出し、構造化した図に表した。

各学年の生命尊重のねらい・構成要素・関連項目

学年	本年度の生命尊重のねらい	構成要素(目的)	関連項目
1 2 3 4 5 6 学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生命の尊厳を生命の力を知り、生命を大切にしようとする心構えを育てる。 ○ 家庭に育ちながら育つる成長することを知り、生命の力を大切にしようとする心構えを育てる。 ○ 命の尊厳から育つることを知り、生命の力を大切にしようとする心構えを育てる。 	文化 食・生活 芸術 国語 算数 理科 道徳 総合 体育 音楽 美術 外国語 情報 保健体育	1-1(1)徳育 2-1(1)徳育 2-2(1)徳育 3-1(1)徳育 4-1(1)徳育 5-1(1)徳育 6-1(1)徳育
1 2 3 4 5 6 学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生命の尊厳を認め、生命を大切にしようとする心構えを育てる。 ○ 命の尊厳を知り、大切にしようとする心構えを育てる。 ○ 命の尊厳を知り、大切にしようとする心構えを育てる。 	国語 算数 理科 道徳 総合 体育 音楽 美術 外国語 情報 保健体育	1-1(1)徳育 2-1(1)徳育 2-2(1)徳育 3-1(1)徳育 4-1(1)徳育 5-1(1)徳育 6-1(1)徳育
1 2 3 4 5 6 学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生命の尊厳を認め、生命を大切にしようとする心構えを育てる。 ○ 命の尊厳を知り、大切にしようとする心構えを育てる。 ○ 命の尊厳を知り、大切にしようとする心構えを育てる。 	国語 算数 理科 道徳 総合 体育 音楽 美術 外国語 情報 保健体育	1-1(1)徳育 2-1(1)徳育 2-2(1)徳育 3-1(1)徳育 4-1(1)徳育 5-1(1)徳育 6-1(1)徳育

資料の選定について

ひびきあい、つながる道徳の時間にするためには、どのような資料（資料の開発を含めて）をどのように活用すればよいかの研究が重要だと考える。具体的には、以下のことを踏まえ選定した。

- ・ 児童・教師の心に響くものであること。
- ・ ねらいを達成するのにふさわしいものであること。
- ・ 普遍的価値が内在されているものであること。
- ・ 児童が多様な意見を出すことができるものであること。

道徳の時間の工夫

生命尊重は、すべての価値項目の根源的な価値であるから、生命尊重を扱った時間は言うまでもなく、1時間ごとの道徳の時間を充実させるための工夫改善が大切だと考える。

- ・ 資料の分析をし、発問を精選する。
- ・ 児童の反応を類型化して視覚的に分かりやすく板書する。そのために、指導案は、児童の反応を予測して作成し、その上で授業に臨む。
- ・ 終末は、教師の説話を中心に余韻を残して終わる。説話のほかにも、映像、詩、児童の作文なども取り入れる。

家庭・地域との連携

子どもにとっての道徳的体験の場は、学校だけでなく、家庭・地域にも存在する。学校と家庭・地域がつながる取組を通して把握された道徳的価値は、児童の生活で生きてはたらく力になると考える。そのために、以下の取組を行った。

- ・ 道徳の授業参観をし、懇談会で話題にする。
- ・ 心のノートを、保護者に読んだり書いたりしていただく。
- ・ 学校だより・学年便りなどで体験活動や道徳の時間の様子を家庭や地域に知らせる。
- ・ 地域の方にゲストティーチャーなどとして参加していただき、体験活動を行う。
- ・ 子育て三原則を、学校・PTAで作成し保護者に知らせ、理解を求める。



5 第1年度の研究成果及び課題

成 果

- ・ 研究推進体制を確立し、1年間の研究を学校全体で取り組むことができた。
- ・ 道徳の時間の指導を工夫することで、児童は道徳の時間が好きになり、進んで考えたり発言したりできるようになってきた。
- ・ 理論研修や授業研究を通して道徳教育の基本的な在り方や指導方法など多くのことを学び、教師も道徳の時間に主体的に望むことができた。
- ・ 1年目の研究発表と情報発信の場として、公開研究会を開催し本年度のまとめと次年度への課題を明らかにすることができた。

課 題

- 全体計画のさらなる見直し
- ・ 体験活動を、道徳の時間に生かすことを明示する。
- ・ 心のノートの活用方針等について明示する。
- 年間指導計画の見直し
- ・ 展開の大要（中心発問、基本発問）を入れる。
- ・ 心のノートとの関連、指導の工夫や体験の生かし方を記述する。
- ねらいの明確化
- ・ 生命尊重について6年間を見通した本時のねらいになるように取り組む。
- 「道徳の時間」の指導方法の工夫
- ・ 指導過程を工夫する。
- ・ 体験活動を計画的に授業に生かす工夫をする。
- ・ 家庭や地域との連携の工夫をする。
- 心を開いて思いを語ることのできる学級の土台作り
- ・ 信頼関係・支持的風土づくり
- ・ 主体的に学ぶための学習規律の確立する。
- 道徳的实践力を高めるための家庭や地域社会との連携
- 道徳の時間の評価
- ・ 子どものアンケートによる自己評価，作文，日記，観察等から個別的，記述的評価を行う。（よい点や可能性などを積極的に評価する。）